

# SMBCグループの サステナビリティへの取組

---

2023年5月30日

# 本日のアジェンダ

## I

### SMBCグループが目指す社会的価値創造 // 3

「幸せな成長」の時代の実現に向けて .....	4
新たな重点課題（マテリアリティ）の選定 .....	5
重点課題（マテリアリティ）選定・新中計策定プロセス .....	6
“物差し”の変化を先取り .....	7
非財務を通じた持続的な企業価値向上 .....	8

## II

### 環境に関する取組 // 9

ネットゼロ実現に向けた移行計画（全体像） .....	10
石炭セクターに対するフェーズアウト戦略の強化 .....	11
ポートフォリオGHG排出量（Scope3）削減への取組強化 .....	12
気候関連リスク管理の強化 .....	14
自社のGHG排出量削減の取組（Scope1、2） .....	15
サステナブルファイナンス .....	16
エネルギーtransitionへの支援 .....	17
脱炭素化に向けた多様なソリューション .....	18
DX × SX .....	19
自然資本・サーキュラーエコノミー .....	20
ルールメイキングへの関与 .....	21

## III

### 社会に関する取組 // 22

人的資本経営の推進 .....	23
健康経営・プロボノ .....	24
人権 .....	25
子どもたちへの機会提供 .....	26
新興国における金融包摂 .....	27
金融経済教育・役職員による寄付 .....	28
少子高齢化 .....	29
日本の再成長 .....	31

## IV

### ガバナンス // 34

サステナビリティ経営体制の高度化 .....	35
ガバナンス・コンプライアンスの質の向上 .....	38
再発防止策の進捗状況 .....	39
政策保有株式 .....	40

## V

### おわりに // 41



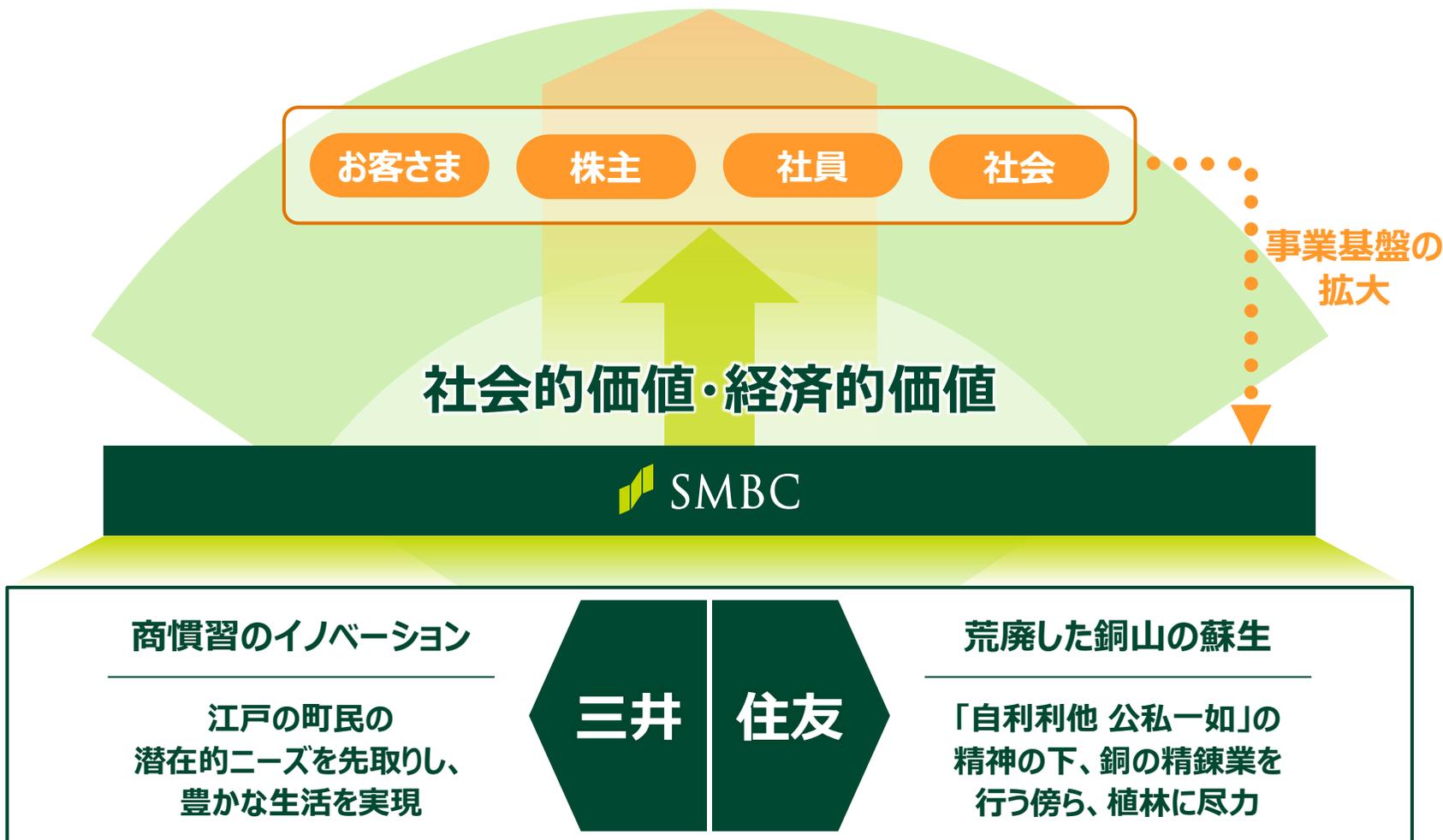
# SMBCグループが目指す 社会的価値創造

---

# 「幸せな成長」の時代の実現に向けて

## 「幸せな成長」の時代

経済の成長とともに、社会課題が解決に向かい、そこに生きる人々が幸福を感じられる時代



# 新たな重点課題（マテリアリティ）の選定

新たな重点課題（マテリアリティ）と、その解決に向けた10のゴールを設定  
今後はさらに具体的なアクションプランを策定、同時並行的に取り組んでいく

環境	トランジションの支援を通じた脱炭素社会の実現	サステナブルファイナンス取組額
	自然資本の保全・回復への貢献	<b>上方修正</b> 50兆円 (20-29年度)
DE&I・ 人権	従業員が働きがいを感じる職場の実現	エンゲージメントスコア
	サプライチェーン全体における人権の尊重	<b>70</b> 以上維持
貧困・ 格差	次世代への貧困・格差の連鎖を断つ	マイクロファイナンス提供者数
	新興国における金融包摂への貢献	<b>+80</b> 万人
少子 高齢化	人生100年時代への不安解消	AM・外貨残高
	人口減少社会を支える利便性の高い基盤の構築	<b>18</b> 兆円
日本の 再成長	企業のビジネスモデル変革支援	スタートアップ向けの投融資額
	イノベーション創出・新たな産業の育成	<b>1,350</b> 億円

さらに具体的なアクションプランを策定予定

# 重点課題（マテリアリティ）選定・新中計策定プロセス

執行と監督、マネジメントと従業員が、約1年間にわたって議論と対話を重ねて決定

## 執行

- 経営会議
- サステナビリティ推進委員会
- オフサイトミーティング



## 従業員アンケート

- 国内約19,000人、海外約1,700人の意見を集約



<主な質問項目>

- ✓ SMBCが注力すべき社会課題
- ✓ 新たなビジネスモデル
- ✓ 新中計で実現したいこと 等

## 監督

- 取締役会
- サステナビリティ委員会



## 経営陣と従業員の対話

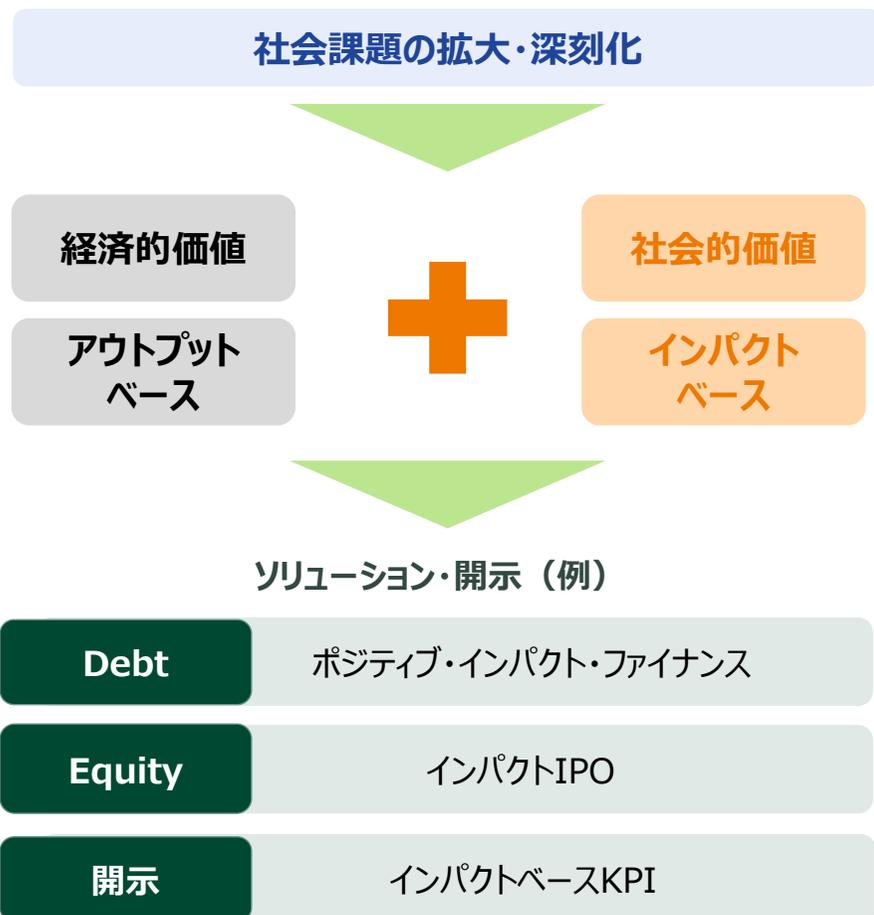
- トップセミナー
- タウンホールミーティング



# “物差し”の変化を先取り

社会的インパクトという新たな“物差し”を軸にソリューションや開示を高度化し、新たな市場を切り拓く

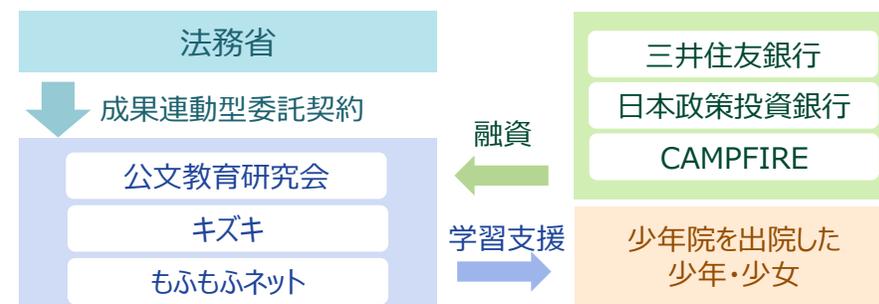
## “物差し”の変化



## ソリューション例

### ソーシャル・インパクト・ボンド (案件例)

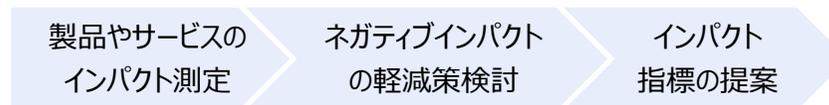
- 少年院を出院した子ども達への学習支援事業。  
学習支援による再犯防止への寄与等 (インパクト) を計測



### サステナビリティインパクトレビュー



- ポジティブインパクト創出やインパクト指標の設定を支援



### SMFG PIF Impact Finder

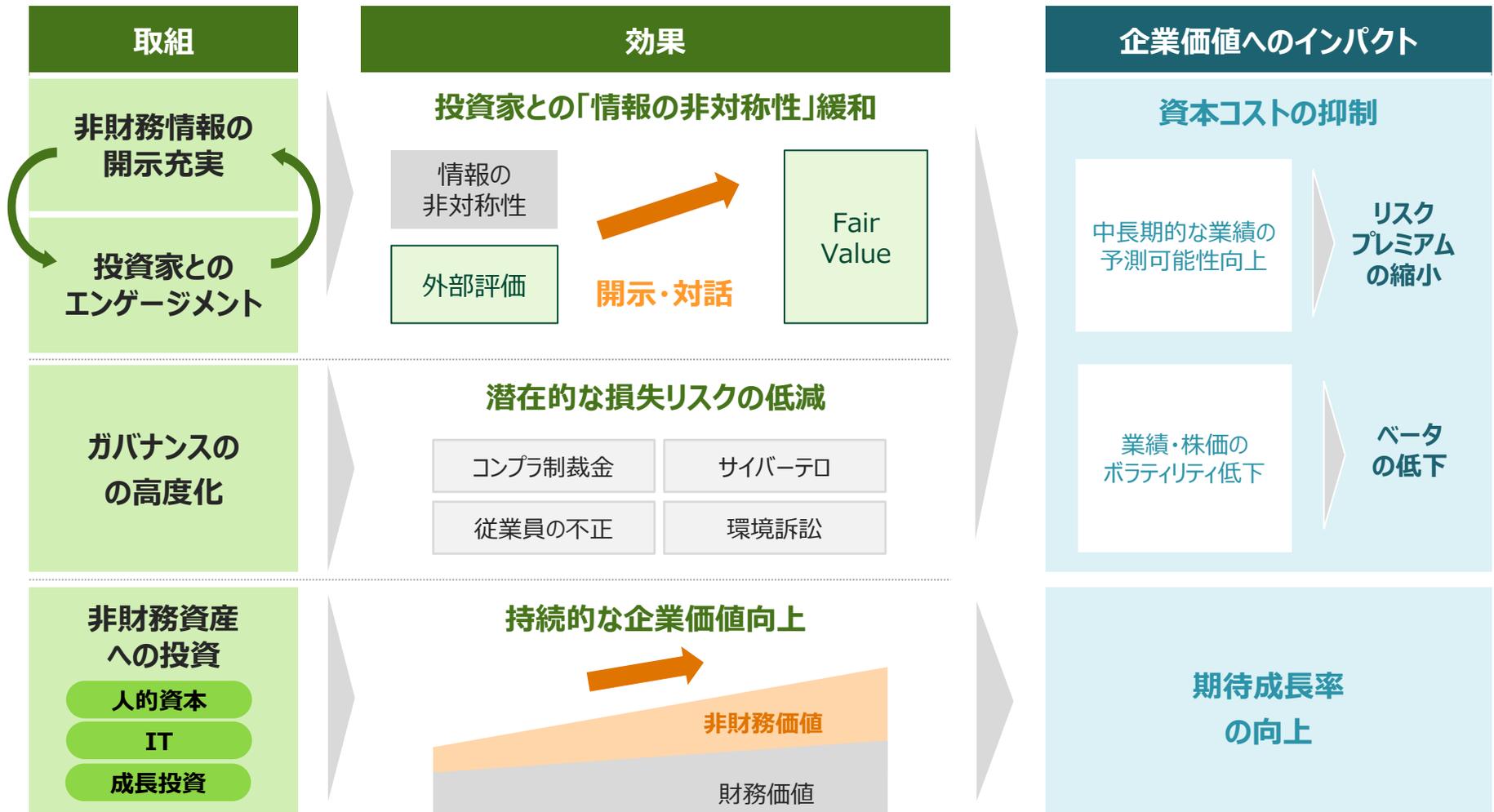
三井住友銀行



お客様の事業におけるインパクトの特定、  
インパクト指標の設定・モニタリングのサポートツール

# 非財務を通じた持続的な企業価値向上

サステナビリティへの取組は、資本コスト抑制や期待成長率向上を通じ、中長期的な企業価値向上にも寄与



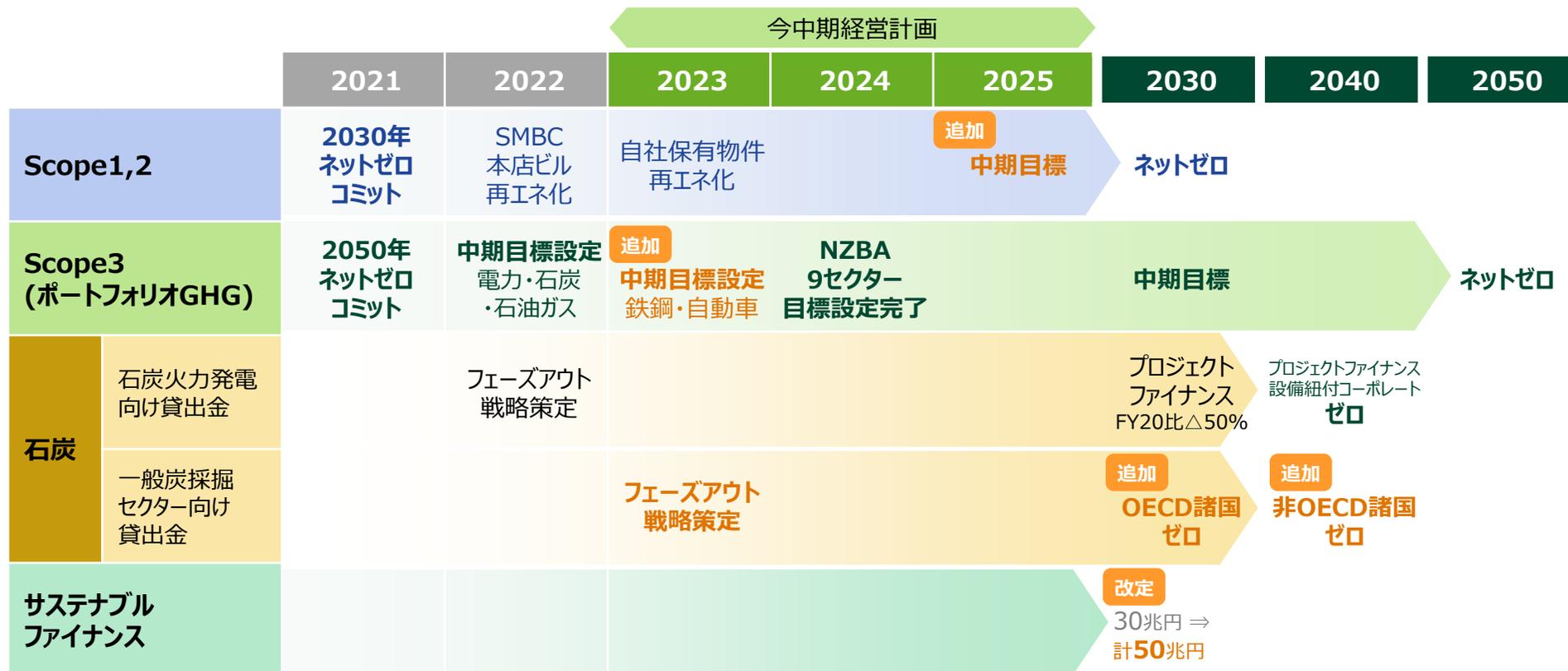


# 環境に関する取組

---

# ネットゼロ実現に向けた移行計画（全体像）

ネットゼロ実現に向けたSMBCグループの目標と行動を移行計画として体系化。今後も高度化を継続



体制整備	目標設定	実行戦略	エンゲージメント
<ul style="list-style-type: none"> <li>ガバナンス体制の強化</li> <li>✓ 役員報酬制度見直し</li> <li>内部統制プロセスの構築</li> <li>役員・従業員のケイパビリティ向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Scope1,2削減目標</li> <li>Scope3削減目標</li> <li>サステナブルファイナンス目標</li> <li>トランジションKPI</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスク管理強化</li> <li>✓ 気候関連RAF</li> <li>脱炭素化ビジネス推進</li> <li>✓ Transition Finance Playbook</li> <li>Scope1,2削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客さまへのアプローチ</li> <li>✓ 移行戦略の確認フレームワーク</li> <li>その他ステークホルダー対応</li> </ul>

# 石炭セクターに対するフェーズアウト戦略の強化

石炭火力発電に加え、新たに一般炭採掘セクターにおいてフェーズアウト戦略を策定

## 一般炭採掘向け融資

23/5策定

(残高)	2022/3	2030	2040
OECD諸国	約200億円	残高ゼロ	
非OECD諸国	約560億円		残高ゼロ
対象セクター	一般炭採掘を主たる事業とする企業・プロジェクト		
対象アセット	貸出金（コーポレートファイナンス・プロジェクトファイナンスの合計）		

### <セクター・事業に対する方針>

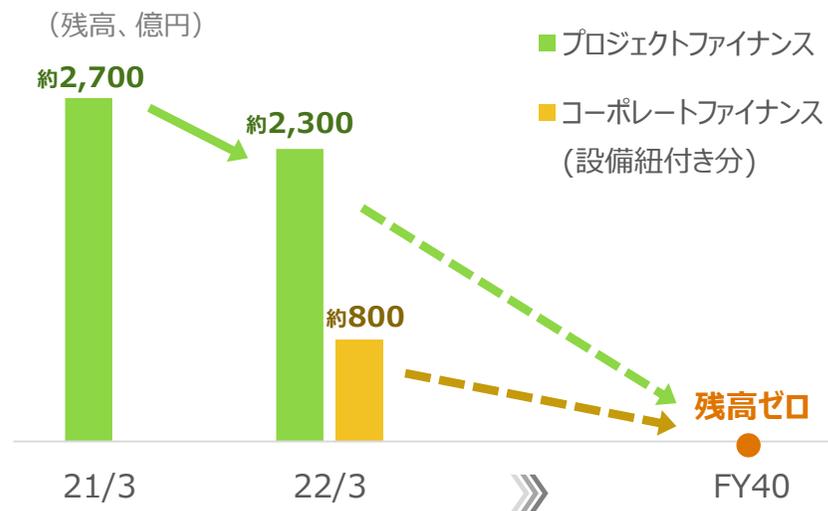
22/8改定

#### 一般炭採掘事業の新規および 拡張案件への支援は行いません

- 一般炭採掘およびそれに紐づくインフラ開発事業を主たる事業とする企業のうち、既存与信がない企業に対する支援を行わない方針
- 「一般炭採掘」事業の新規採掘と拡張および当該事業に紐づくインフラ事業の新規開発および拡張への支援を行わない方針

## 石炭火力発電向け融資

22/5策定



### <セクター・事業に対する方針>

22/8改定

#### 石炭火力発電所の新設および 拡張案件への支援は行いません

### <セクター・事業に対する認識>

- お客さまがカーボンニュートラルに伴う長期戦略を策定・公表するなど、気候変動への対応を進めていくことを期待
- 脱炭素社会への移行と実現に資するお客さまの取組を支援

# ポートフォリオGHG排出量（Scope3）削減への取組強化①

2030年中期目標設定済の3セクター（電力、石油ガス、石炭）は、目標に向かって順調に進捗

## 電力セクター

22/5目標設定

(g-CO2e/kWh)



21/3比  
△4%

FY30目標

● 195 (IEA/SDS)

● 138 (IEA/NZE)

21/3

22/3  
速報値



FY30

## 石炭セクター

22/8目標設定

(Mt-CO2e)



21/3比  
△45%

FY30目標 (21/3比)

● △37% (IEA/SDS)

● △60% (IEA/NZE)

21/3

22/3  
速報値

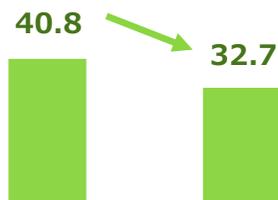


FY30

## 石油ガスセクター

22/8目標設定

(Mt-CO2e)



21/3比  
△20%

FY30目標 (21/3末比)

● △12%(IEA/SDS)

● △29%(IEA/NZE)

21/3

22/3  
速報値



FY30

### 参考：SMBCグループ各社の取組

三井住友DSアセットマネジメント

対象運用資産の  
カーボンフットプリント  
削減目標設定

23/2



21/3

2030

SMBC日興証券

引受業務の  
GHG排出量試算

23/5

(Mt-CO2e)



電力

石油ガス

# ポートフォリオGHG排出量（Scope3）削減への取組強化②

2023年度中に、鉄鋼および運輸(自動車)セクターの中期目標を公表

2024年10月までに、Scope3の大宗をカバーする合計9セクターで目標設定完了

## 鉄鋼・運輸(自動車)セクター

		FY21実績 (試算値)	中期目標
鉄鋼	絶対量 (Mt-CO2e)	8.2	FY23中 に設定
	原単位 (t-CO2e/t-Steel)	2.0	
運輸 (自動車)	原単位 (g-CO2e/vkm)	217	

### 中期目標の方向性

- 鉄鋼**
  - 1.5℃シナリオ達成を見据えつつ、国内外の需要見通しや技術革新の進捗を考慮
- 自動車**
  - SBTiガイダンスを参照し、目標設定
  - WTW(Well to Wheel)でライフサイクル排出量を対象



WTW

TTW  
tank to wheel

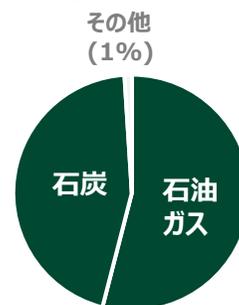
## セクター別目標設定プロセス

- 2021**
  - 2050年ネットゼロコミット
- 2022**
  - 中期目標設定：電力、石油ガス、石炭
- 2023**
  - セクター別排出量の簡易試算 **FY23上期**
  - 中期目標設定：鉄鋼・自動車 **FY23中**
- 2024**
  - NZBA 9セクター目標設定完了

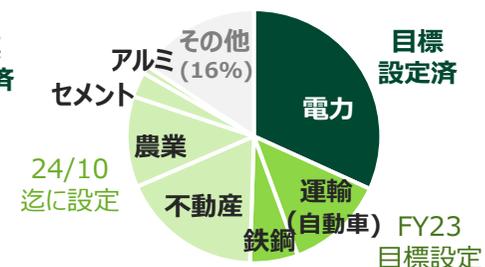
Scope3の大宗で中期目標設定完了

### (参考) 世界のCO<sub>2</sub>/GHG排出量内訳

供給エネルギー別\*1  
(CO<sub>2</sub>排出量)



需要セクター別\*2  
(GHG排出量)

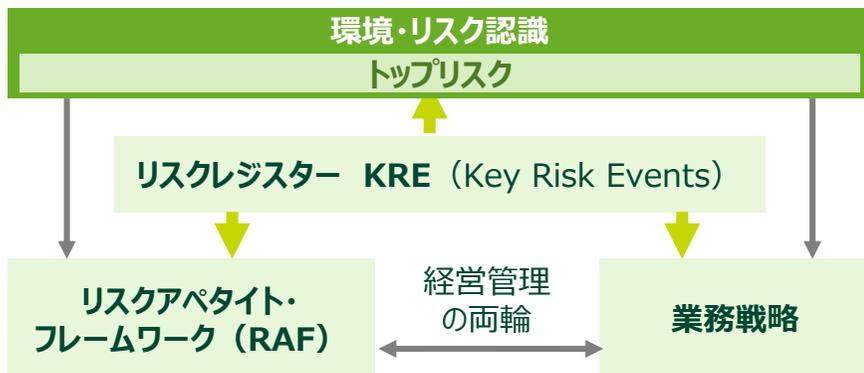


# 気候関連リスク管理の強化

## 気候関連リスク管理の高度化に向け、新たな枠組を整備

### リスクアペタイト・フレームワーク（RAF）の高度化 23/4

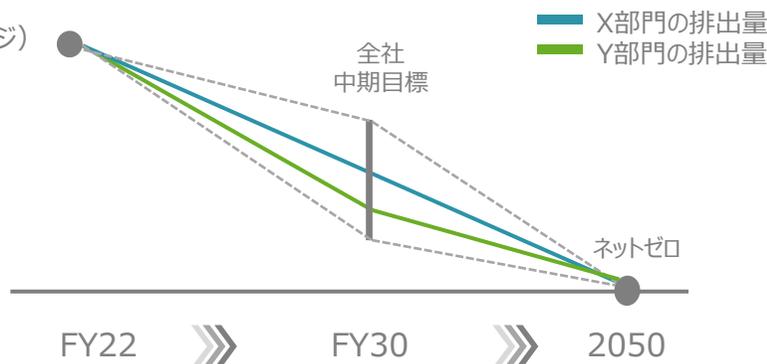
- 気候関連RAFを導入し、ポートフォリオGHG排出量が**1.5℃シナリオに整合するよう**セクター・部門別に管理



#### 「気候関連RAF」新設

～ポートフォリオGHG排出量を管理指標に追加

(イメージ)



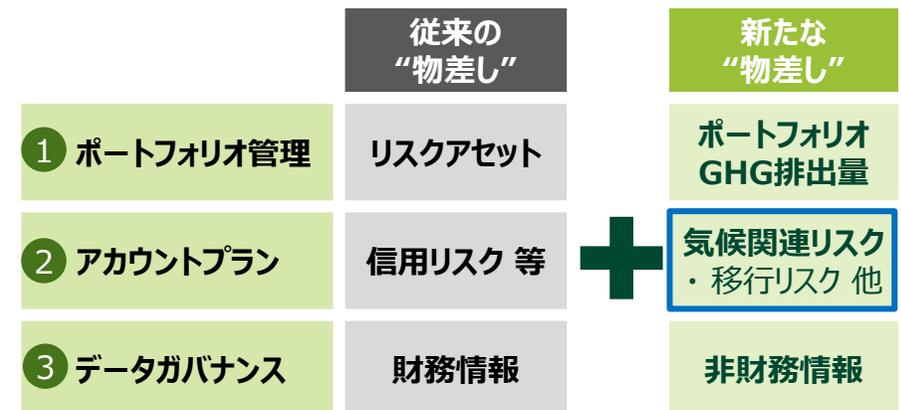
### 個社別移行戦略の確認フレームワーク導入 FY23上期

- **移行リスクへの対応状況を顧客別に確認し**、エンゲージメントやアカウントプランを高度化

#### リスク管理イメージ

		移行リスクへの対応レベル					リスク
		1	2	3	4	5	
GHG 排出量	高						高
	中						中
	低						低

#### 気候関連リスク管理高度化（概念図）



# 自社のGHG排出量削減の取組 (Scope1、2)

新たに中期目標を設定の上、2030年ネットゼロに向けた取組をグループで着実に推進

## Scope1、2実績と目標

23/5中期目標設定

(千t-CO2e)



### 削減に寄与した主な取組

- 1 SMBC4本部ビルの再エネ電力への切替
- 2 SMBC川崎メガソーラープレイス運用開始
- 3 オフサイトコーポレートPPA運用開始



SMBC川崎  
メガソーラープレイス

## 今中計主要施策

### Scope2 オフィスの再エネ電力への切替

自社保有物件

国内主要子会社  
の本社ビル



2023年4月  
再エネ化完了

### Scope1 社用車EV/FCV化



電気自動車

燃料電池自動車

充電設備

### GHG排出量計測・集計の高度化

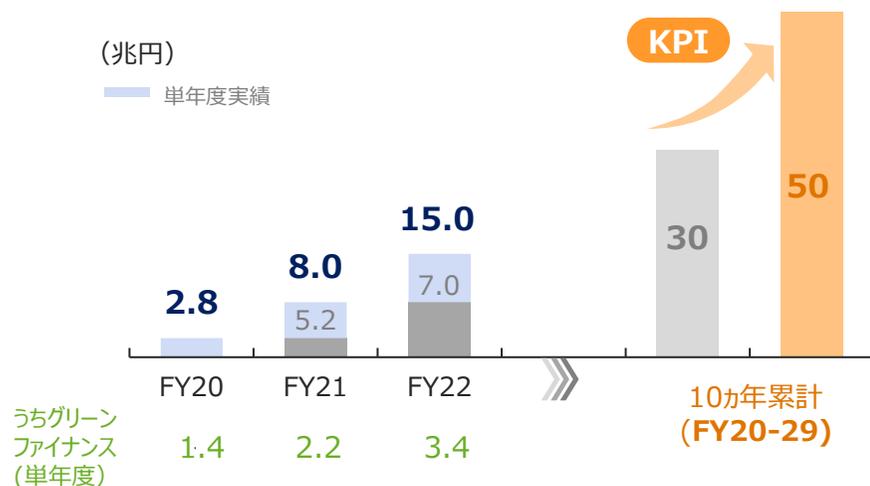
- グループ各社におけるGHG排出量データ集計の自動化・効率化



# サステナブルファイナンス

2030年までのサステナブルファイナンス取組額目標を30兆円⇒50兆円に上方修正

## サステナブルファイナンス取組額（累計）



算入対象は厳格に定義

<b>類型</b>	融資または引受（リース、投資、出資、運用は含まず）
<b>対象事業</b>	国際資本市場協会（ICMA）の以下に該当する事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンボンド原則「グリーンプロジェクトカテゴリー」</li> <li>ソーシャルボンド原則「ソーシャルプロジェクトカテゴリー」</li> <li>「トランジションファイナンスハンドブック」準拠</li> </ul>

## リーグテーブル

三井住友銀行

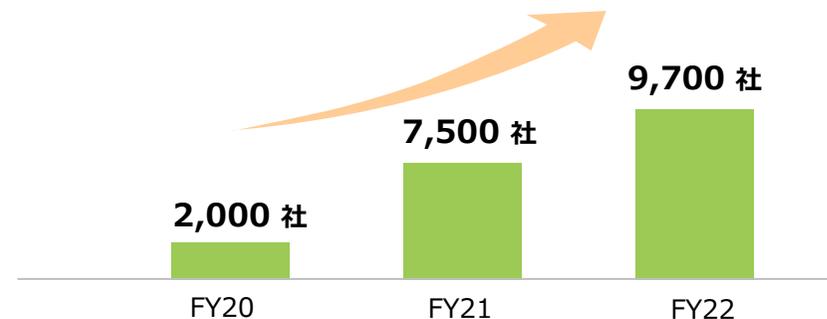
グリーンローン\*1  
グローバル No.2

SMBC日興証券

SDGs債引受\*2  
本邦No.2



参考：サステナ関連のエンゲージメント社数（SMBC、国内）



\*1 出所: Dealogic (グローバル、FY22 取組額) \*2 出所: SMBC日興証券調べ(日本、4Q22 引受額)

# エネルギー・トランジションへの支援

お客様のトランジション・技術革新の支援を通じ、実体経済の脱炭素化に貢献

## Transition Finance Playbook策定

23/5公表

- パリ協定に沿った**トランジションの定義・適格性に関する判断基準・フロー**を明確化

作成  
プロセス

各国・地域の政策、タクソノミー、ロードマップを参照の上、トランジション適格アセットを定義

第三者  
評価取得

セクター

電力、石油ガス（今後も順次拡大）

### トランジション適格性判断基準の概要

#### 資金用途特定型

(プロジェクトファイナンス等)

#### 資金用途不特定型

(コーポレートファイナンス等)

グリーン

融資対象アセットのGHG排出量がネットゼロ

借入人のGHG排出量がネットゼロ

トランジション

融資対象アセットがトランジション適格

+

スポンサー・借入人が2050年ネットゼロ目標設定済

借入人の戦略が1.5℃シナリオと整合的

## ファイナンス

### 住友化学宛トランジション・ローン

- 国内化学分野初で経済産業省のクライメート・トランジション・ファイナンスモデル事業に採択



### 商船三井宛トランジション・リンク・ローン

- お客様の脱炭素計画を踏まえたSPTs（サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット）に基づく融資契約



### 川崎重工業宛サステナビリティ・リンク・ローン

- 水素サプライチェーン構築をKPIとする融資契約



# 脱炭素化に向けた多様なソリューション

再生可能エネルギーの普及に向け、パートナー企業と柔軟に連携しつつ、金融・非金融サービスを提供

## 投資銀行との戦略的パートナーシップ

22/6

- 再生可能・クリーンエネルギー領域に強みを有する独立系M&Aアドバイザーファームへの出資・業務提携



## M&A支援

22/8

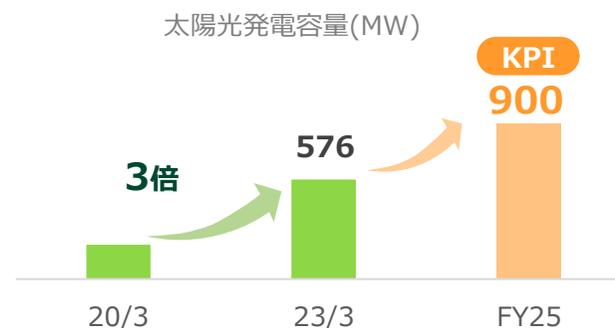
- 再生可能エネルギー企業によるクロスボーダーM&A案件支援



## 再生可能エネルギー発電事業



- 太陽光発電を中心に案件積み上げ



## 航空会社向け脱炭素ソリューション



- 後発開発途上国における調理・暖房設置プロジェクトから創出されるカーボンクレジットを航空会社に提供開始



## デジタル技術を駆使した脱炭素化支援ツールを開発し、さらなる利用拡大を目指す

### Sustana

～ SMBCグループが開発した  
GHG排出量算定・削減支援クラウドツール



#### 主なターゲット

- TCFD対応に悩む**プライム上場企業**
- サプライチェーン全体のGHG排出量算定に悩む**サプライチェーン頂点・上流企業**
- 自社のGHG排出量算定に悩む**中堅・中小企業**

#### Sustanaの強み

- グローバル基準である**GHGプロトコル**を採用
- 削減施策を自動的に提案する**レコメンド機能**拡充
- **外部パートナー**との柔軟な連携

SMBCグループ  
一体での支援

地銀への  
ホワイトレーベル

商工会議所  
との連携

### 法人カード 決済データを活用したCO<sub>2</sub>可視化サービス



# 自然資本・サーキュラーエコノミー

地球環境保護に向け、気候変動対応に加え、自然資本の保全・回復とサーキュラーエコノミーの実現にも注力

## 自然資本

### ネイチャーポジティブに向けた取組

#### みらい共創ファーム秋田

- 持続可能な食農システムの実現に資する事業を運営

#### FANPS

Finance Alliance for Nature Positive Solutions

- 企業のネイチャーポジティブ促進に向けたアライアンス

#### 富良野自然塾

- 植樹、環境教育プログラム等の活動を支援

#### The Reforestation Fund

- 南米を中心に植林を行うファンドに投資

### TNFDレポートの発行

23/4発行



### 自然資本に対する当社の考え方を示す邦銀初のレポート



## サーキュラーエコノミー

### Closed Loop Circular Plastics FundへのLP出資

- サーキュラーエコノミーに特化した投資会社が管理・運営
- 主にプラスチック分野の新たなテクノロジーやサービス、製品を提供する企業へ投融資



投資額  
1,000万米ドル

### 産業設備の処分請負会社“SMART”



- プラントの解体工事や設備の撤去作業から、不要となった機械・設備の再販・再資源化までワンストップで提供



# ルールメイキングへの関与

さまざまな官民イニシアチブに参加し、SMBCグループとして意見を発信し、議論をリード

## GFANZ・NZBA・NZAMI

- 作業部会に参画し、**世界のネットゼロ実現に向け意見発信**

GFANZ

NZBA  
銀行

NZAMI  
資産運用

NZIA  
保険

NZAOA  
アセットオーナー

当社参画

- GFANZ Sectoral Pathways作業部会
- NZBA Finance & Engagement作業部会
- NZBA Sector Track作業部会

## アジア・トランジション・ファイナンススタディグループ (ATFSG)

- アジアのネットゼロ実現**にはトランジションファイナンスが不可欠との認識の下、民間金融機関主導で発足



### 主な議論

- トランジションファイナンスの重要性
- 取組に当たっての課題
- 各国政府への提言 等

## ベトナム：公正なエネルギー移行パートナーシップ (JETP)

- ベトナムのグリーン移行を支援**するために、公的および民間資金を導入する枠組に参加

民間金融  
機関連合

資金拠出  
77.5億\$



## 水素バリューチェーン推進協議会 (JH2A)

- 水素分野におけるグローバルな連携やサプライチェーン形成**を推進する団体に理事会員企業として参画

「水素フォーラム2023  
-官・民・金融で考える水素-」



各方面より  
340名参加

水素ファンド



会員企業18社で  
FY23中の設立に向け検討中



# 社会に関する取組

---

# 人的資本経営の推進

「SMBCグループ人財ポリシー」を制定し、人的資本経営を推進

多様でプロフェッショナルな従業員が挑戦し続け、働きがいを感じる職場とチームの実現を目指す

## 「人財ポリシー」制定



人的資本投資

前年比\*1  
+7%

KPI

エンゲージメントスコア **70**以上維持

## 多様な人材のマネジメント

### 1 女性の活躍



トップのコミットメント



リーダー育成研修

女性取締役比率 (-FY30)  
**30%** (23/3: 13.3%)

女性管理職比率 (FY25)  
**25%** (23/3: 19.1%)

### 2 グローバル人材の活躍



Global Leadership Program



平等な登用・活躍機会確保

外国籍役員数 (FY25)  
**25名** (23/3: 20名)

### 3 キャリア採用者の拡大

キャリア採用実績



- ・ リファラル採用
- ・ カムバック採用
- ・ “SMBCアルムナイ”

キャリア採用管理職比率

15.6%  
引き上げ  
22/3 FY25

# 健康経営・プロボノ

## 真のDE&I実現を支える健康経営、プロボノプロジェクトを推進

### 健康経営

- 従業員一人ひとりの心身の健康を経営課題とし、取組を推進



### 健康増進プログラム

健康管理アプリ“KENPOS”を導入、  
食事や運動管理を通じた  
生活習慣の改善を促す活動を実施



### SMBC Run & Fit



SMBC本店内に、従業員の  
ためのフィットネス施設を新設

### プロボノプロジェクト

- 従業員の多様な働き方の実現に向け、  
業務時間の一部をプロボノに充当できる仕組



グループに拡大



- 社会的価値の創造
- リーダーシップの醸成
- エンゲージメントの向上

# 人権

さまざまな地域・産業とつながる「結節点」として、自社のみならず、サプライチェーン全体の人権尊重に取り組む

## 基本的な考え方

- 当社が与える影響・受ける影響の両方を考慮した上で人権尊重に取り組み、社会に対するポジティブインパクトを創出



## 人権レポート

23/5発行



人権への方針、取組を纏めたSMBCグループ初のレポート

## 人権デューデリジェンスの高度化

22/10開始



## 人権・DE&I関連ソリューション

22/12開始

人的資本経営推進  
分析融資



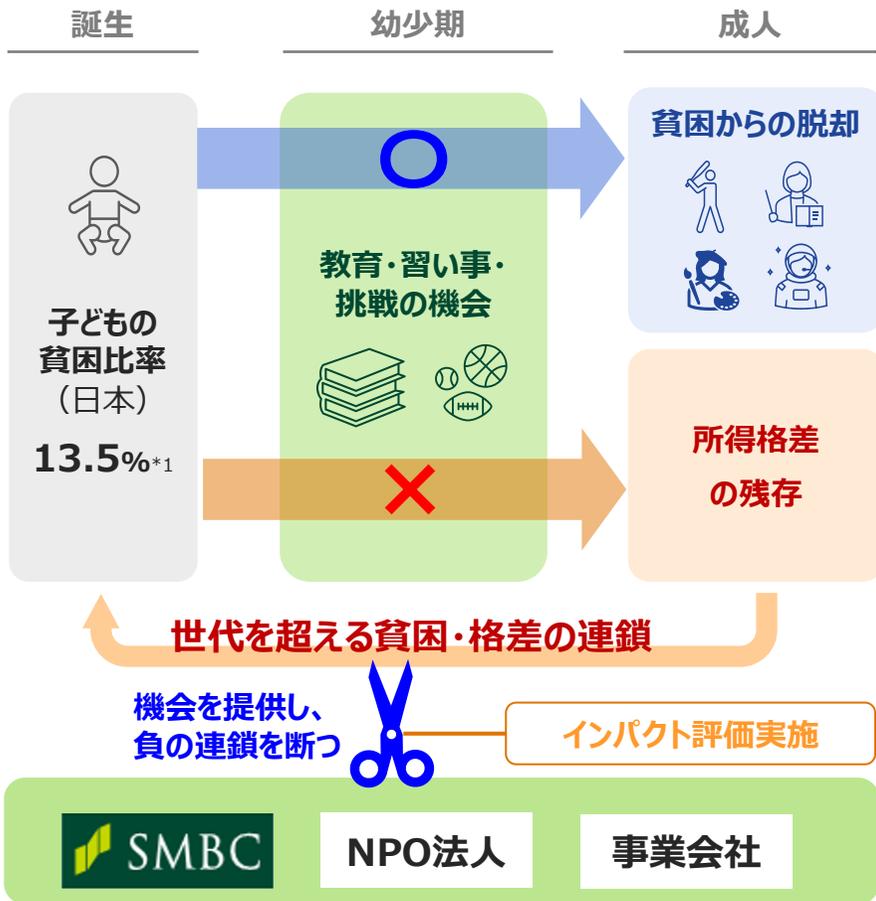
人権・DE&Iテーマの  
サステナビリティ・  
リンク・ローン



# 子どもたちへの機会提供

子どもたちに教育や挑戦の機会を提供し、次世代への貧困・格差の連鎖を断つ

## 背景・狙い



## NPO・教育機関との協働

23/5開始

### 1 公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン



### 2 株式会社 公文教育研究会



\*1 出所：厚生労働省

# 新興国における金融包摂

マルチフランチャイズ戦略対象国を中心に、新興国の金融包摂に貢献

## マイクロファイナンス



**KPI** マイクロファイナンス提供者数 **+80万人**

**狙い** 貧困層の社会的自立支援



- 事業資金借入
  - ✓ 食堂経営の運転資金
  - ✓ 中古ミシン購入費 等
- 借入人の大半が女性

## BTPNシャリアの取組（インドネシア）

預金

マイクロ  
ファイナンス

決済

直近3年のインパクト評価



コミュニティ  
支援

金融教育

エンパワーメント  
プログラム

貧困線を下回る収入の  
お客さまの割合  
**8.5%改善**

お客さまの家計支出  
**23.2%増加**

## BTPN : “Daya”



- インドネシア全体の“幸福”向上を目的としたCSRプログラム



インドネシア語で  
“empowerment”



Dayaデジタル  
プラットフォーム  
利用者数(FY21)

**210万人**

金融経済教育

健康・福祉

起業家支援

職業訓練

## JICAとの協調融資

- 2022年5月、ACLEDA Bank（カンボジア）に対する農業セクター向け融資契約に調印



融資総額  
**8,500万米ドル**

村落部に住む農民等の  
金融アクセス向上に貢献

# 金融経済教育・役職員による寄付

金融経済教育や役職員寄付等、社会貢献に関する従来の取組も一段と加速

## 金融経済教育



KPI FY22実績  
**150**万人 **22.8**万人  
 FY20~29

“金融リテラシー検定”創設

SMBCコンシューマーファイナンス



- きんざいと協働
- SMBCCFの**若手社員グループ**が**発案したアイデアが具現化**

グループのブランド統一



- SMBCCF中心に培ってきた業界No.1の実績・ノウハウをベースに、グループベースの取組へと高度化

## グループ役職員による寄付プログラム



SMBCグループ  
ライジング基金

グループの役員・従業員  
約**8,000**名参加

「**貧困・格差**」をテーマに一般公募し、  
役職員投票を元に支援先団体を決定

FY22支援団体	主な活動内容
アクセプト・インターナショナル	家族に頼れない子供たちの居住・生活支援
エデュケーションエキューブ	母子家庭、困窮家庭の教育支援
SALASUSU	カンボジアでの教師育成プログラム
チャイボラ	児童養護施設新任職員への研修
ベタニヤホーム	母子家庭へのバントリー支援



# 人生100年時代への不安解消

ライフパートナーとして、お客さまとその家族が心豊かに楽しく生涯を送ることができるサービスラインアップを提供



お金にまつわる  
悩みの解消



ふやす

NISA・iDeCo

投資信託

そなえる

外貨

保険

かりる

住宅ローン・教育ローン

のこす

遺産整理・遺言信託

ととのえる  
つたえる



SMBCデジタルセーフティボックス

より豊かな  
人生を送る  
ためのサポート



あんしん  
ゆたか



SMBCエルダープログラム

介護施設等取扱企業紹介

たのしむ  
みまもる



ファミリーネットワークサービス

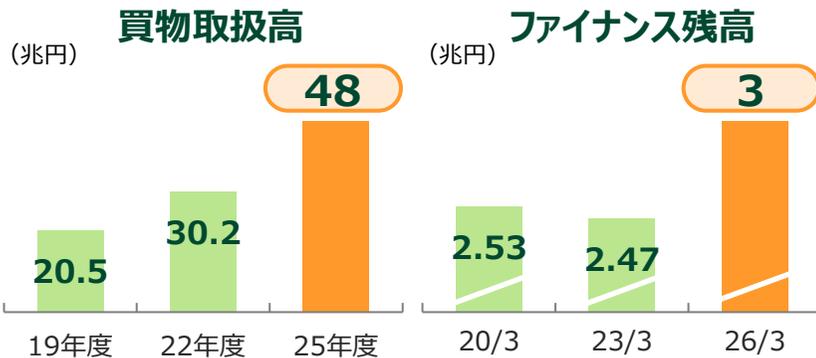
# 金利上昇も見据えた国内ビジネス改革

## 戦略のポイント

デジタルを軸にしたリテールビジネス構築

決済ビジネスの強化

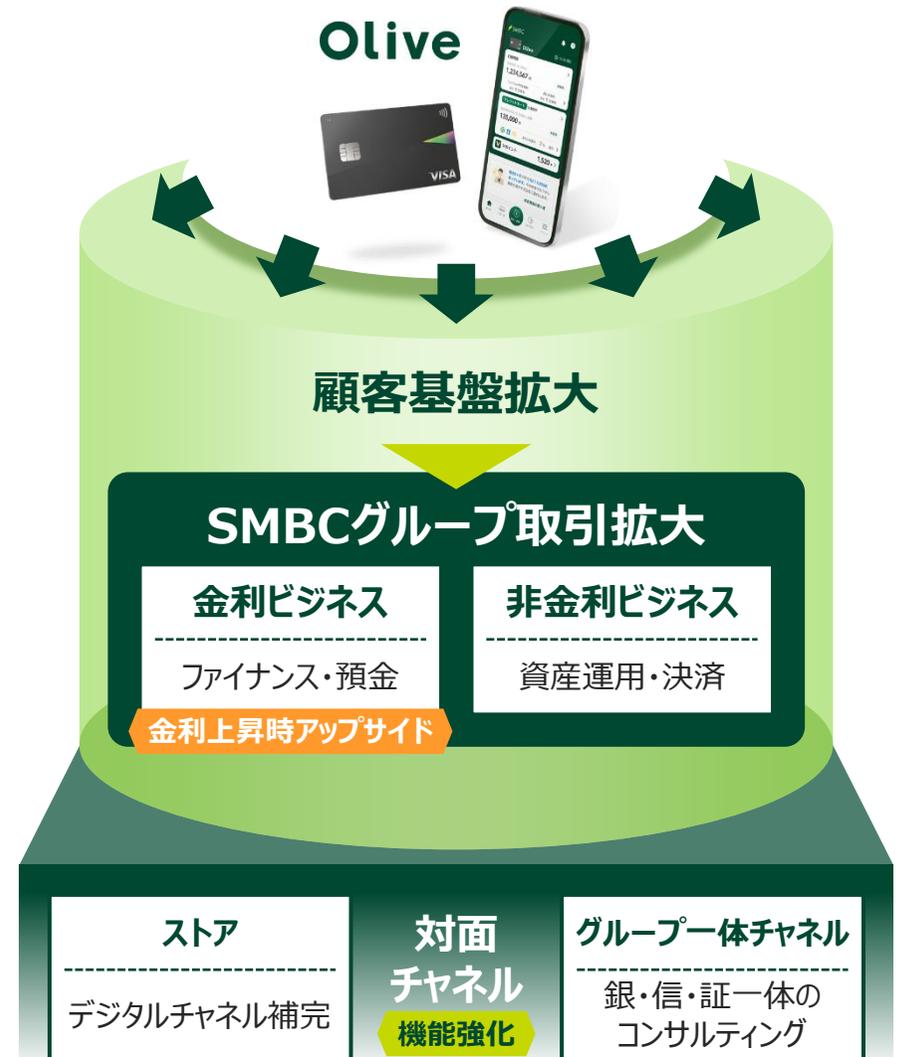
### KPI



## 社会的価値の創造

- 貯蓄から投資への流れを捉えあらゆる世代の安定した資産形成を支援
- Oliveを軸とした利便性の高い金融・決済のデジタルインフラを実現

## ■ Oliveを軸にしたビジネスモデル



# イノベーション創出・新たな産業の育成

グループ一体でお客さまの成長ステージに応じて新規事業創出をサポートし、新たな産業育成に貢献



# アセット依存ビジネスからの脱却

## 戦略のポイント

デジタルも活用した法人ビジネス高度化

投資家ビジネスの拡大

グローバルCIB・グローバルS&Tの強化

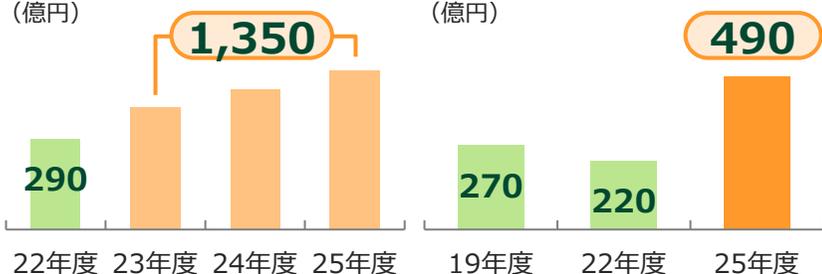
### KPI

スタートアップ向け投融資

(億円)

海外証券業務純益

(億円)



## 社会的価値の創造

- デジタルソリューションを活用した企業のDX支援
- サステナブルファイナンス・エンゲージメントを通じて企業のトランジションを支援

## ■ 最適な国内法人営業体制の構築

中小企業

中堅企業

大企業

◀ 抜本的なデジタル化

▶ 専門性の高い提案

ペーパーレス・業務集約

セクターカバレッジ

グループ各社サービスの  
オンライン一元提供

グローバル連携

データ・AIの活用

先進的なファイナンス  
ニーズへの対応

## ■ 法人ビジネスの資産効率向上

高採算プロダクトへのリスクを見極めたアセット投入

スタートアップ

再生  
ファイナンス

不動産  
ファイナンス

LBO

グループ連携による手数料ビジネスの拡大

SMBC日興  
デリバティブ

SMBC信託  
不動産仲介

SMCC  
法人決済

アセットバックビジネスへのチャレンジ

グループ保有資産を活用した投資家ビジネスの推進

# 地方創生・地域活性化

日本の再成長実現に向け、グループの多様なソリューションを通じて地域活性化にも貢献

## 水族館開発事業

SMBC信託銀行

- 信託スキームを活用した水族館開発・運営

神戸ポートミュージアム内「átoa」



四国水族館



インパクト  
評価実施

## 古民家再生事業

SMFL

- 太宰府の古民家を改装し、ホテルとして運営

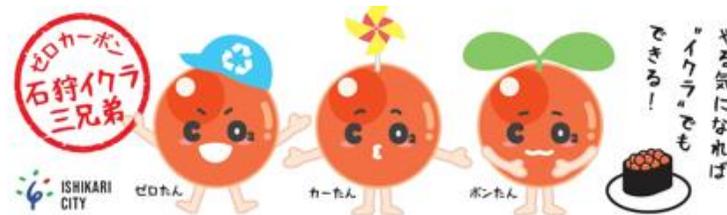


## 地域の脱炭素の実現

日本総研  
The Japan Research Institute, Limited

- 北海道石狩市との間で、再生可能エネルギーを核とした脱炭素と地域創生に向け協働

石狩市の脱炭素PRキャラクター



## 企業版ふるさと納税

三井住友銀行





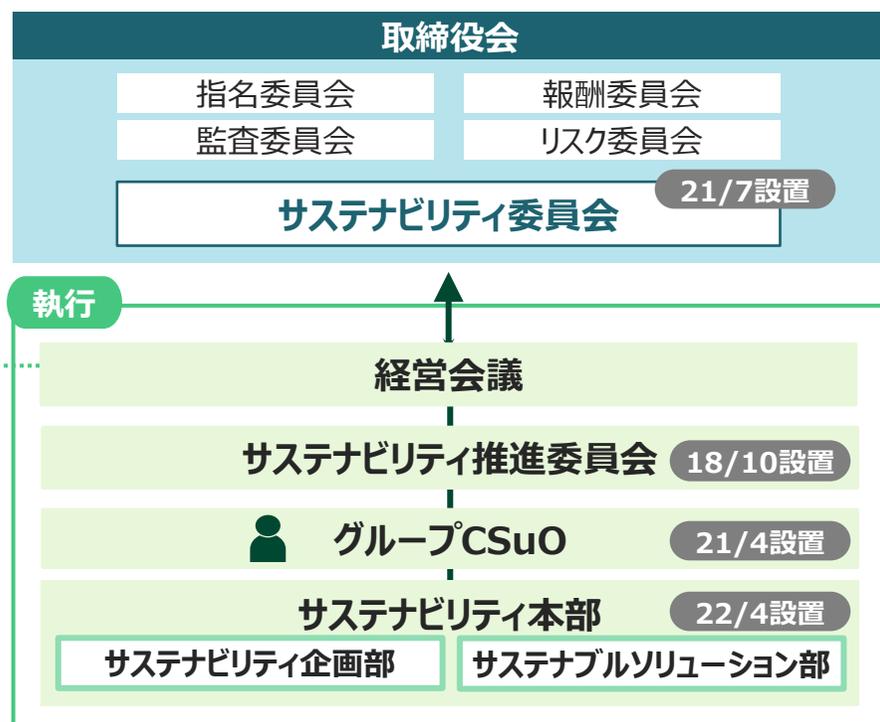
# ガバナンス

---

# サステナビリティ経営体制の高度化①

グローバル・アドバイザーに、Paul Polman元ユニリーバCEOが就任  
従来、経営体制の不断の高度化を継続し、取締役会における議論を戦略・施策へと反映

## サステナビリティ経営体制



## グローバル・アドバイザー 23/3選任

2023/3 新委員にPaul Polman氏選任  
国連グローバル・コンパクト副議長、元ユニリーバCEO



## 取締役会における議論の反映

### 2022年度の主な討議内容

#### 取締役会

- 重点課題（マテリアリティ）の見直し
- ネットゼロ実現に向けた移行計画
- サステナビリティ推進施策の進捗報告

#### サステナビリティ委員会

- 中期的なサステナブルビジネス戦略
- 社会的価値創造に向けたアプローチ

### 議論に基づき実施した施策の例

重点課題（マテリアリティ）  
の見直し

自然資本の取組強化  
(TNFDレポート等)

移行計画の高度化

人権の取組強化  
(デューデリジェンス・人権レポート等)

# サステナビリティ経営体制の高度化②

役員報酬に、ポートフォリオGHG排出量等のESG指標を組み入れ  
従来、非財務情報をプロアクティブに開示

## 役員報酬制度の改定

基本報酬	固定報酬
賞与 ● 現金 ● 株式報酬Ⅱ	<p>年度業績連動型 (0-150%)</p> <p>基準額 × (年度業績 ESG評価) × (個人の職務遂行状況等)</p> <p>● 定量 KPI達成率 (サステナブルファイナンス、自社GHG排出量等) ±10%</p> <p>● 定性 主要ESG評価機関評価</p>
	<p>中期業績連動型 (0-150%)</p> <p>基準額 × (中期業績等 財務指標 株式指標 非財務指標)</p> <p>● 定量 環境 (サステナブルファイナンス ポートフォリオGHG排出量) 15%</p> <p>● 従業員 エンゲージメントスコア DE&amp;I(中核人材の多様性)</p> <p>● 定性 マテリアリティ解決に向けた取組評価</p>
株式報酬Ⅰ	
株式報酬Ⅲ	役位昇進時

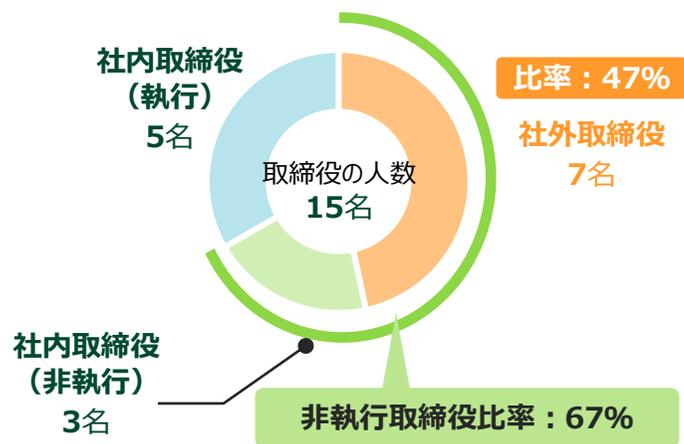
## 非財務情報開示への取組

2017年	TCFD提言への賛同表明
2019年	物理的リスクに関する気候変動シナリオ分析結果公表 <b>G-SIBs初</b>
2020年	移行リスクに関する気候変動シナリオ分析結果公表
2023年	TCFDレポート開示
2023年	TNFDレポート開示 <b>邦銀初</b> 人権レポート開示

## 非財務情報に関する内部統制プロセス構築



# (参考) 取締役会の構成 (23/6-)



## 取締役会のダイバーシティ向上



## ◀ 新社外取締役 ▶



**Charles D. Lake II**  
アフラック生命保険 (株)  
代表取締役会長



**Jenifer Rogers**  
アシュリオンジャパン・  
ホールディングス (同)  
ゼネラル・カウンセラーアジア

	当社が特に期待する知見・経験						
	企業経営	金融	グローバル	法務・リスク管理	財務会計	IT/DX	サステナビリティ
國部 毅		¥					
太田 純		¥					
福留 朗裕		¥					
工藤 禎子		¥					
伊藤 文彦		¥					
一色 俊宏		¥					
後野 義之		¥					
川崎 靖之		¥					
松本 正之							
山崎 彰三							
筒井 義信		¥					
新保 克芳							
桜井 恵理子							
チャールズ D. レイク II		¥					
ジェニファー ロジャーズ		¥					

# ガバナンス・コンプライアンスの質の向上

行政処分後の再発防止策に取り組むとともに、グループ・グローバルガバナンス高度化に成長施策と一体で注力

## 健全な組織文化のさらなる浸透

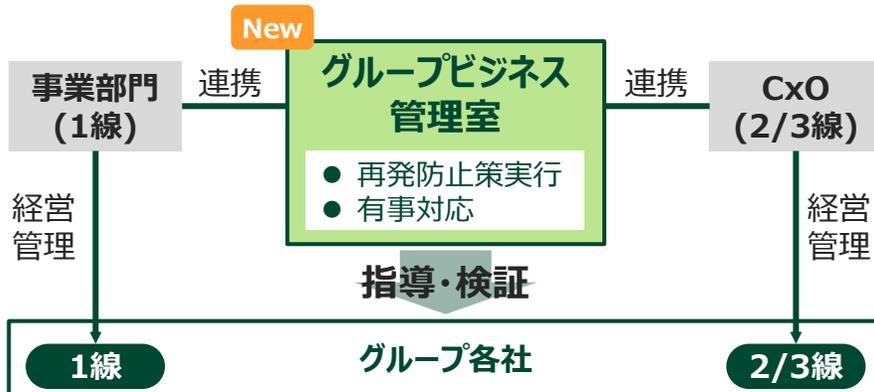
- 行政処分を契機とする再発防止策の着実な実行
- “Integrity”および“Customer First”の再徹底

### Five Values

すべての役職員が  
共有すべき価値観

- Integrity
- Customer First
- Proactive & Innovative
- Speed & Quality
- Team “SMBC Group”

## グループベースでの有事即応体制



## 成長施策と一体での体制整備

I

### 金利上昇も 見据えた 国内ビジネス改革

- Oliveを通じた事業領域の拡大・複雑化に対応する3線管理の強化
- デジタル特有のリスクに対応したモニタリング体制の構築

II

### アセット依存 ビジネスからの 脱却

- プロダクトガバナンスの強化
- マーケットのダウンサイドリスクコントロール

III

### 成長性を踏まえた グローバル ポートフォリオの構築

- Written Agreement解除に向けたAML・リスク管理高度化
- 出資先のPMI推進、ガバナンス強化
- 各国・地域ごとの課題への対応

# 再発防止策の進捗状況

再発防止に向けた各種枠組の策定・構築は概ね完了

経営トップの旗振りの下、実装・実効性検証を進め、浸透・定着を図る

22/11 改善計画提出

23/5現在

再発防止に向けた枠組の策定・構築

実装・実効性検証

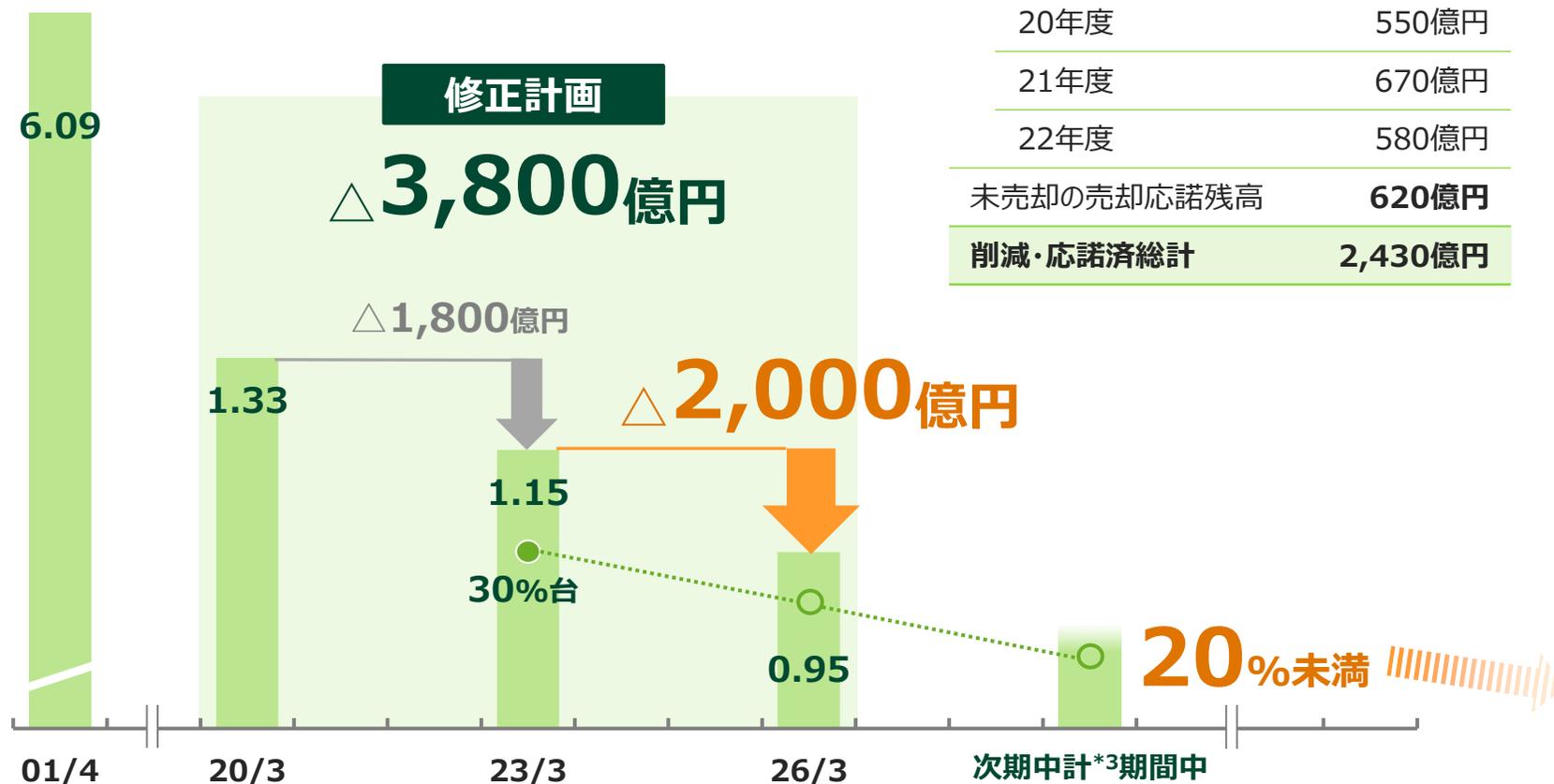
浸透・定着

相場操縦 事案	<p><b>1 経営管理態勢の強化</b></p> <p>&lt;SMBC日興&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 経営執行の監督強化 新たな社外取締役の招聘</li> <li>● 役員向けコンプライアンス研修実施</li> <li>● 守りへの重点的な資源配分 人員+50名超・IT投資100億円超</li> <li>● 1線・2線の専門性強化 外部人材の積極採用</li> <li>● 商品・サービス協議会設置 リスク・課題・対応を1線・2線で協議</li> </ul> <p>&lt;SMFG&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SMBC日興役員人事・資源配分計画への関与強化および<b>十分性の検証</b></li> </ul>	<p><b>2 内部管理態勢の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3線管理の実効性向上 外部知見を活用したターゲットオペレーティングモデルの策定・実装</li> <li>● <b>コンプライアンス部門の再編</b> 統括機能強化、役割・責任の明確化</li> <li>● <b>「不公正取引防止部会」設置</b> 売買審査上の不芳事態等を1線・2線で議論</li> </ul>	<p><b>3 健全な組織文化の醸成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>新たな理念体系の策定</b> 従来の理念体系を再構築し、SMFGの「Five Values」を内包</li> <li>● <b>タウンホールミーティング</b> 改善策や会社の方向性等に関する双方向ディスカッション（271回開催済）</li> </ul>
	FW規制 違反事案	<p><b>4 経営管理態勢の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部通報勉強会の実施</li> <li>● FGコンプライアンス部の態勢強化</li> </ul>	<p><b>5 顧客情報管理態勢の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報管理ルールの制定・徹底</li> <li>● RPA・AIによる事後モニタリング</li> </ul>

# 政策保有株式

削減ペースを加速し、「25年度末までに△2,000億円削減」を最低目線として設定  
次期中計期間中に、連結純資産に対する時価割合20%未満の目処をつける

(兆円) ■ 国内上場株式簿価\*1  
● 政策保有株式時価残高\*2 ÷ 連結純資産



## 削減状況

削減額	1,800億円
20年度	550億円
21年度	670億円
22年度	580億円
未売却の売却応諾残高	620億円
削減・応諾済総計	2,430億円

\*1 20/3末以降の業務提携目的の出資を除く \*2 有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む  
 \*3 26-28年度



おわりに

---

# サステナビリティの実現に向けて

SMBCグループのサステナビリティ

現在の世代の誰もが経済的繁栄と幸福を享受できる社会を創り、  
将来の世代にその社会を受け渡すこと



富良野自然塾  
「46億年・地球の道」  
にある石碑



# Appendix

---

# 移行計画の概要

構成要素	項目	内容
ポリシー	気候変動に関するコーポレートポリシーおよび取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>「SMBCグループサステナビリティ宣言」「グループ環境方針」の改定</li> <li>2030年までにScope1、2ネットゼロ</li> <li>2050年までにScope3（ポートフォリオGHG排出量）ネットゼロ</li> </ul>
ガバナンス	気候変動に関するガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>取締役会、サステナビリティ委員会、グループCSuOによる監督・執行</li> <li>役員報酬制度の高度化、内部統制プロセス運営</li> <li>役員・従業員のケイパビリティ・ビルディング</li> </ul>
実行戦略	気候変動に関する商品・サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>GHG排出量可視化サービス、グリーン預金、カーボンクレジット、サステナブルファイナンス商品等</li> </ul>
	気候関連リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>RAF（Risk Appetite Framework）、データガバナンスの高度化</li> </ul>
	気候変動に配慮した投融資方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般炭採掘・石炭火力発電、石油ガス、パーム油農園開発、森林伐採セクターに関する方針</li> </ul>
エンゲージメント	顧客とのエンゲージメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>Transition Finance Playbookの導入</li> <li>個社別移行戦略の確認フレームワークの導入</li> </ul>
	産業界とのエンゲージメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>GFANZ、GFANZ Japan、NZBA、NZAMI、PCAF、IIF、GFMA、水素バリューチェーン推進協議会等に参画</li> </ul>
	日本政府とのエンゲージメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリーンエネルギー戦略検討合同会合、トランジションファイナンス環境整備検討会等に参画</li> </ul>
指標と目標	サステナブルファイナンス目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>2030年までに累計50兆円</li> </ul>
	セクター別ポートフォリオ排出量削減目標 (Scope3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄鋼・自動車セクター等対象セクター拡大</li> <li>トランジションに関するKPIの設定</li> </ul>
	自社排出量削減目標 (Scope1、2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年度比2025年度40%減、2026年度55%減</li> </ul>

# 引受業務のGHG排出量算定手法

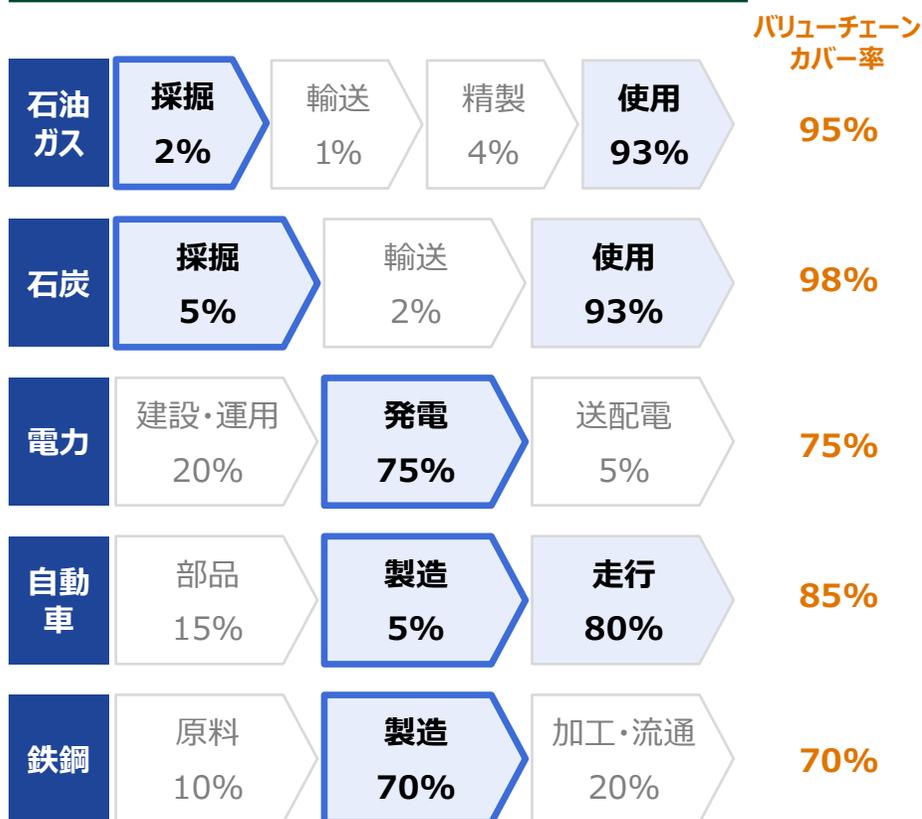
	電力セクター	石油ガスセクター	備考
基準年	2021年度		条件決定日が2021年度の案件におけるリーグテーブルクレジットに基づき算出
算定対象	リーグテーブルクレジット		
計測指標	絶対量(Mt-CO2e)		
対象バリューチェーン	発電	上流生産事業 (統合型も含む)	
対象スコープ	Scope1	Scope1・2 Scope3(Cat11)	
算定手法	$\text{Facilitated Emissions} = \sum \frac{\text{Facilitated amount}}{\text{各社の負債・資本合計}} \times \text{発行体の年間排出量}$ $\text{Facilitated amount} = \frac{\text{資金調達総額 (total raised amount)}}{\text{リーグテーブルクレジット (\%)}} \times \text{リーグテーブルクレジット (\%)}$		<p>排出量は引受割合（リーグテーブルクレジット）、資金調達総額、加重係数（100 % or 17%）を掛けることによって算出</p> <p>*加重係数は方針決定がなされていないため、本開示では考慮せず</p>
カバー率	95%	88%	
データ品質スコア	Scope1 : 1.5	Scope1・2 : 1.2 Scope3 : 1.0	

\*上記手法はPCAF Capital Market Instruments Proposed Methodology for Facilitated Emissions 2022に基づき作成

# ポートフォリオGHG目標設定・算定対象の概観

- 世界の排出量に関し、主要なセクター&バリューチェーンをカバーするべくポートフォリオGHG排出量の算定・目標設定を実施
- 各セクターの状況を踏まえた目標設定を行うことで、効率的かつ迅速に実体経済の脱炭素化に貢献

## バリューチェーン別GHG排出量\*



## ポートフォリオGHG排出量削減目標設定の考え方

- 科学的なシナリオや脱炭素技術ロードマップ等をもとに、お客さまとの議論を重ねたうえで、ネットゼロに向けた排出削減パスを見極める方針
- 気候変動対応には一定の期間を要するため、中期的な目標を定めることが有効との考えのもと、2030年目標を設定
- 各セクターのバリューチェーン別排出量やデータ量・質の制約を踏まえ、算定対象を選定

SMFG対応状況   算定対象事業   算定対象GHG排出量

\*IEA : World Energy Outlook 2022、経産省 : トランジション・ファイナンスに関する産業別ロードマップ等を参考にSMFG作成

# 鉄鋼・自動車セクター：ポートフォリオGHG排出量算定手法

	鉄鋼セクター	自動車セクター	備考
基準年	2021年度		
算定対象アセット	貸出金		
計測指標	絶対量(Mt-CO2e)または炭素強度(t-CO2e/t-Steel)	炭素強度(g-CO2e/vkm)	鉄鋼セクターに関しては指標を検討中
対象バリューチェーン	粗鋼生産	自動車製造 (LDV:車両総重量6t未満)	自動車はバリューチェーン上、走行段階の排出量が重要な為、Scope3Cat11(製品使用時の排出量)も対象スコープに設定
対象スコープ	Scope1・2	Scope1・2 Scope3(Cat11)	
算定手法	$\text{SMBCポートフォリオ絶対量} = \sum \frac{\text{各社への貸出金額}}{\text{各社の負債・資本合計}} \times \text{各社の年間排出量}$	$\text{SMBCポートフォリオ炭素強度} = \sum \frac{\text{各社への貸出金額}}{\text{セクター総貸出金額}} \times \text{各社の炭素強度}$ $\text{各社の炭素強度} = \frac{\text{Scope1・2}}{\text{総走行距離(製造)}} + \frac{\text{Scope3(WTT+TTW)}}{\text{総走行距離(販売)}}$ <p>※WTT (Well to Tank) 燃料採掘から車両へのエネルギー供給までの過程における排出量</p> <p>※TTW (Tank to Wheel) 車両走行時の排出量</p>	自動車は、走行に伴う実質的な排出量が国や地域によって大きく異なる為、実体経済のGHG削減に貢献すべく、WTT段階の排出量も算定

# サステナブルファイナンスの定義

定義	グリーン ファイナンス	<p>気候変動対策をはじめとした環境配慮事業（国際資本市場協会（ICMA）のグリーンボンド原則等における「グリーンプロジェクトカテゴリー」に該当する事業）を対象としたファイナンス</p> <p><u>グリーンプロジェクトカテゴリー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー</li> <li>エネルギー効率</li> <li>汚染防止および抑制</li> <li>生物自然資源及び土地利用に係る環境持続型管理</li> <li>陸上及び水生生物の多様性の保全</li> <li>グリーン輸送</li> <li>持続可能な水資源及び排水管理</li> <li>気候変動への適応</li> <li>環境に配慮した生産技術およびプロセス</li> <li>「環境認証」を取得しているグリーンビルディング</li> </ul>
	ソーシャル ファイナンス	<p>社会関連事業（ICMAのソーシャルボンド原則等における「ソーシャルプロジェクトカテゴリー」に該当する事業）を対象としたファイナンス</p> <p><u>ソーシャルプロジェクトカテゴリー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手頃な価格の基本的インフラ設備（飲料水、下水道、衛生設備、輸送、エネルギーなど）</li> <li>必要不可欠なサービスへのアクセス（教育、健康など）</li> <li>手頃な価格の住宅</li> <li>中小企業向け資金供給による潜在的効果を通じた雇用創出</li> <li>マイクロファイナンスによる潜在的効果を通じた雇用創出</li> <li>食の安全</li> <li>社会経済的向上とエンパワーメント</li> </ul>
	トランジション ファイナンス	<p>カーボンニュートラルの実現に向けて長期的な戦略に則った温室効果ガス削減の取組を支援することを目的とし、ICMAの「トランジションファイナンスハンドブック」又は当行が定める「Transition Finance Playbook」に則したファイナンス</p>
対象となる ファイナンス	<p>■ グリーンファイナンス・ソーシャルファイナンス・トランジションファイナンス</p> <p>■ その他、環境課題や社会課題の解決を支援・促進するファイナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトファイナンス（再生可能エネルギー、公共インフラ向け等）</li> <li>各種制度融資（ESG/SDGs推進分析融資、人的資本経営推進分析融資等）</li> <li>グリーンローン、ソーシャルローン、サステナビリティ・リンク・ローン、トランジションローン、ポジティブ・インパクト・ファイナンス</li> <li>環境不動産向けノンリコースローン 等</li> <li>グリーンボンド、ソーシャルボンド、サステナビリティ・リンク・ボンド、トランジションボンド等</li> <li>グリーンエクイティ、ソーシャルエクイティ、トランジションエクイティ 等</li> </ul>	
	三井住友銀行	
	SMBC 日興証券	

# ESGインデックスへの組入・イニシアティブ

## ESGインデックスへの組入



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index



2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN  
ESG SELECT LEADERS INDEX

2023 CONSTITUENT MSCI JAPAN  
EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

GPIF 選定インデックス



## 国内外イニシアティブへの賛同

WE SUPPORT



Signatory of:



# リンク集

	発行時期	URL	QRコード	
1	統合報告書	2022/7	<a href="https://www.smfg.co.jp/gr2022/">https://www.smfg.co.jp/gr2022/</a>	
2	TCFDレポート	2022/8	<a href="https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/climate/">https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/climate/</a>	
3	サステナビリティレポート (HPのPDF化)	2023/3	<a href="https://www.smfg.co.jp/sustainability/report/backnumber/">https://www.smfg.co.jp/sustainability/report/backnumber/</a>	
4	TNFDレポート	2023/4	<a href="https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/naturalcapital/">https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/naturalcapital/</a>	
5	ESGデータブック	2023/3	<a href="https://www.smfg.co.jp/sustainability/report/databook/">https://www.smfg.co.jp/sustainability/report/databook/</a>	
6	Transition Finance Playbook	2023/5	<a href="https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/business/pdf/tfp_j.pdf">https://www.smfg.co.jp/sustainability/materiality/environment/business/pdf/tfp_j.pdf</a>	
7	人権レポート	2023/5	<a href="https://www.smfg.co.jp/sustainability/group_sustainability/forrights/Human_Rights_Report_j.pdf">https://www.smfg.co.jp/sustainability/group_sustainability/forrights/Human_Rights_Report_j.pdf</a>	